

氏名	所属	プラン・事業タイトル
ビジネスプラン部門/高校生以下の部		
鈴木 聡真 鈴木 杏	ぐんま国際アカデミー 中等部3年・同1年	コラボde支援
ターイーバ サディア	伊勢崎商業3年・同2年	GELE
星野 士夢		
村田 佳成琉 小野 瑛太	県立前橋2年・同2年	21世紀のドラえもん:KIと拓くAIとの新しい共生 システムの提案
中島 瑠香 村上 花音	前橋東2年・同2年	make U pick
ビジネスプラン部門/大学生・専門学校生の部		
菅野 航平	高崎商科大3年	コロナ禍収束で不要になったアクリル板加工に よる贈り物「くりくり」
加藤 徳明	東京大4年	SDGsに配慮した完全内陸型養殖システムの構築
出井 樹利亜	共愛学園前橋国際大3年	TranS
ビジネスプラン部門/一般の部		
佐藤 栄寿	CS&Fマーケティング	スマホアプリによる相続手続きのデジタル化
門倉 紀子	ナラティブハート	がん専門カウンセラーによるオンラインカウンセリング
坂本 博明	Trait ~鼓膜温ラボ~	鼓膜温計測で作業負担を検出し個人特性を活かして 生産性を高める
木下 隆介	いちもん	日本の食の価値向上を目指し、共創で新たな価値 創造を起こす
ベンチャー部門		
岡田 康弘	ブラックメンテナンス	農家と生活者を繋ぐ循環型エコシステム
篠原 憲文	つばさ公益社	びんころできる安心社会をつくる
アジス アフメッド	共に暮らす	外国にルーツを持つ子どもの未来をつむぐ
小林 志保	花助	【推し】へ想いを届ける、最適化したシンプルなお花贈り

(エントリー順・敬称略)



群馬イノベーションアワード2次審査

15組 ファイナルへ

今年で11回目を迎える起業家発掘プロジェクト「群馬イノベーションアワード(GIA)2023」(上毛新聞社主催、田中仁財団共催)の2次審査が7日、前橋市の前橋商工会議所会館で行われた。1次書類審査を通過した52組が独自のビジネスプランを発表し、28日のファイナルステージに進む15組が決まった。

52組熱くプレゼン

エントリーした485組から選ばれた2次審査の出場者は、食、農業、医療福祉、生活全般などの課題解決に向けたさまざまなアイデアを考案。資料をスクリーンに映し、ファイナルステー

ジと同様に3分間のプレゼンテーションに臨んだ。

廃棄されるしゅうゆかすや規格外の野菜を扱った新たな商品展開、外国人向けに行政マニュアルを多言語化するアプリの開発、企業と連携した難民支援など、出場者は練り上げたプランを熱意を込めて発表した。

独自の新しいプランを考案する「ビジネスプラン部門」は高校生以下の部で4組、大学・専門学校生の部で3組、一般の部で4組が選ばれた。昨までの「スタートアップ」と「イノベーション」を統合した「ベンチャー部門」は4組が最終審査の切符をつかんだ。

審査員は田中仁・ジンスホールディングスCEO、荒井正昭・オープンハウスグループ社長、土屋裕雅・カインズ会長、長谷川健・群馬銀行執行役員コンサルティング営業部長、関口雅弘・上毛新聞社社長が務めた。ターゲット層や経費、運営方法など、事業として実現させるための具体的な質問を投げかけた。

ファイナルステージは、前橋市の日本トータグリンドーム前橋で公開審査

を実施する。東京農大・高吹奏楽部による演奏、クリエイティブディレクターでGO代表の三浦崇宏氏の講演などが行われる。会場では県内を拠点に活動するクリエーターや地元飲食店などが出展する「群馬イノベーションマーケット」も開かれる。

(林哲也)